

Slovenia Monthly December 2018

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2019年1月11日



～12月の主なポイント～

政治： 公務員労働組合、賃金引上げにつき政府と合意
経済： 新リュブリャナ銀行(NLB)の民営化進む、65%売却完了
外政： スロベニア、国連移住グローバル・コンパクト(GCM)を採択
軍事： ボブナル警察本部長が正式任命、スロベニア初の女性警察本部長となる
観光： 2018年、過去最高の観光客数560万人を記録する見込み
スポーツ： ガブロヴェツ・スロベニアオリンピック委員長、再選果たし2期目就任

政治

【内政】

●ブリッチ新開発・戦略事業・結束担当大臣が就任

3日、開発・戦略事業・結束担当大臣の候補者として推薦されたブリッチ氏(Mr Iztok Puric, アレンカ・ブラトウシエク同盟(SAB)所属)は、国民議会経済EU担当委員会(economy and EU affairs committee)に対して、「スロベニアは、2014～2020年に確保していたEU予算31億ユーロの内、21億ユーロ分の案件を実施しており順調に推移しているが、課題は、EUに対する請求が遅延している点である。政府内の開発・欧州結束政策室におけるITシステムが複雑であり適切に機能していないために生じている問題で、これを改善する必要がある」と述べた。

19日、国民議会は、ブリッチ氏の開発・戦略事業・結束大臣任命にかかる投票を実施し、同氏は、賛成45票、反対30票を得て承認された。



(photo: スロベニア政府HP)

●公務員労働組合、賃金引上げにつき政府と合意

3日、政府及び公務員労働組合の代表等は、総額約3億ユーロに上る賃金引上げ等にかかる団体協約に署名した。いくつかの労働組合は同協約に署名しなかったが、今般合意した組合数は同協約が有効となるためには十分であり、予定されていた12月5日からの公務員によるストライキは回避された。同合意文書には、低い給与区分に属する公務員に対する約4%の賃金引上げ、日曜・祝日等の時間外勤務に対する報酬の15%から30%引上げ等が記載されている。シャレツ首相は、「限られた予算の中で最善の合意に達した」として双方の交渉を称え、組合側の理解にも感謝の意を表明した。

●コペル市選挙管理委及び市議会、現市長による票の再点検要請を却下

7日、コペル市選挙管理委員会は、先般の市長選挙の決選投票で、ブルジャン候補(無所属)が現職のポポヴィッチ市長を下して当選したことにつき、ポポヴィッチ元市長が票の数直しを求めていることに関し、同元市長の要請を却下した。

22日、コペル市議会の地方選挙後の第1回会合が開催され、同議会は、ポポヴィッチ前市長による市長選挙決選投票における票の再集計にかかる要請を却下した。市議員らは、市議会はあくまでも政治

的な組織であり、かかる判断は司法府に委ねられるべきであると主張した。これに対し、同前市長は、行政裁判所に対し、票の再集計を求める訴訟を起こすとの方針を明らかにした。

●パホル大統領、年次4者協議開催

10日、パホル大統領は、シャレツ首相及び上院・下院両院の議長を招いて、年次会合を行った。パホル大統領は、マラケシュにおける国連移住グローバル・コンパクト(GCM)について、GCMの採択はスロベニアの安全保障に悪影響を及ぼすことはないこと、また、スロベニアは小国ではあるが地政学的に重要な位置にあり、多国間協調主義(multilateralism)が非常に重要である旨の見解で4者が一致したと述べた。シャレツ首相は、GCMに関し、将来的に更なる議論が展開されると予測されるが、スロベニアは単独で行動することはできず、他国との協調が必要であると述べた。そのほか、4者は、構造改革、選挙関連法の改正、州設立の可能性、気候変動、人権オンブズマンの後任選出等について協議した。本4者協議は、2014年、パホル大統領の提案により、国が直面する重要課題につき国家元首、政府の長、両院議長が意見交換し、政治的コンセンサスを得ることを目的として開始された。

●最低賃金法の改正が可決

13日、国民議会は、最低賃金法の改正を可決した。賛成票56票、反対票はなかった。同改正によると、最低賃金は、現在の638ユーロから、2019年は667ユーロ、2020年には700に引き上げられる。また、同改正法は、最低賃金を、最低生活費の120%以上、140%以内に設定し、2020年より、現在最低賃金額に含まれる時間外勤務等の手当・ボーナスを最低賃金とは別に計算・支給することを規定している。本改正案を提出した野党「左派」(The Left)のメセツ党首は、同法案の議会通過を「新政権による最も重要なステップである」と評価した。

●憲法裁判所:「国政選挙の選挙区関連条文は違憲」

13日、憲法裁判所は、スロベニアの選挙関連法において、国政選挙における選挙区(electoral districts)の規模を規定する条文が、憲法違反であるとの判決を下した。同条文は、26年前に制定されたもので、現状にそぐわないとしている。現在、スロベニアには選挙区分(electoral units)が10区分あり、その内2つが少数民族に充てられ、残りの8つを更に11の選挙区に分けて、全88の選挙区がある。選挙区における有権者数の差は大きいところで、3.5倍の差がある。この問題について、憲法裁判所に対して調査を請求し

ていた国民評議会(上院)のコウシュツァ議長は、今般の憲法裁判所の判決を歓迎し、議会及び政府が同判決を尊重することを期待すると述べた。カティッチ法務大臣は、本件に関し政府もこれまでの経緯を承知しており、今般の判決内容及び解決案を確認すると述べた。

●2030年までの国際開発協力・人道支援戦略が承認

20日、政府は、2030年までのスロベニア国際開発協力・人道支援戦略を承認した。優先地域は、西バルカン諸国、欧州近隣諸国及びサブサハラアフリカであり、優先課題は、女性及び若者の就労支援を含むディーセント・ワーク促進、持続可能かつ包括的な経済成長及びマイクロ・中小企業振興である。同戦略は、本年9月に国民議会において採択された国際開発協力・人道支援に関する決議に基づくもの。

●野党SDS、シャレツ首相に対する不信任動議を提出

21日、野党民主党(SDS)及び国民党(SNS)は、スロベニア政府が、2014年の憲法裁判所判決に基づき、SDSが発動した私立学校に対する国庫による完全な財政支援に向けた動議が不成立となったことを受け、シャレツ首相に対する不信任動議を提出した。他方、野党新スロベニア・イニシアティブ(NSi)は、ピカロ教育・科学・スポーツ大臣が、来年の新学期に間に合うように同判決履行のための包括的な解決策を発表したことを受け、SDSによる不信任動議を支持しないとの立場を明らかにした。シャレツ首相は、SDSが発動した私立学校の財政支援にかかる動議は部分的な解決策に過ぎず、政府は憲法裁判所による判決を適切に履行する旨強調しており、同首相に対する不信任動議は否決される見込みである。

●スロベニア警察、賃金にかかる合意書に署名

27日、スロベニア警察の労働組合は、政府との賃金にかかる合意書に署名し、数ヶ月に亘る抗議行動に終止符を打った。シャレツ首相及びボブナル警察本部長によって署名された同合意書には、警察官の基本給及び時間外労働に対する報酬の引上げが明記されており、また、シェンゲン国境における業務の追加的負担に鑑み、関連業務に携わる警察官に対する手当が追加される。さらに、同合意書では、独立機関による制服警官の業務量の分析、また警察内における各警察官の業績を評価する枠組みを設けることとしており、労働組合側の代表ウロシェヴィッチ氏は、政府が警察側の要求を受け入れたことを評価した。

＜2019年政府予算関連＞

●2019年予算改正案が可決

13日、国民議会において、2017年12月に可決された2018年及び2019年の予算執行法にかかる改正案が可決された。2017年に可決された2019年の歳入は約97億5000万ユーロ、歳出は約97億ユーロ、財政収支は、約5000万ユーロ。同予算の改正案には、本年に入ってから承認された地方自治体への交付金増加分3250万ユーロ、年金支給額の増額分1650万ユーロ、NGO支援の新規基金等が含まれる。歳出増加に対応する追加歳入源として、緊縮財政の下、凍結されていた公務員を対象とした業績手当支給の支払開始時期を延長したことから発生した余剰金6000万ユーロを確保している。なお、欧州委は、11月21日、スロベニア政府に対して、予算案の見直しを要請しており、政府は、本改正案に続いて、2019年第一四半期中に、2019年補正予算を議会において審議・通過させることを目指している。

●政府予算案に対する財政諮問会議の見解

13日、財政諮問会議(Fiscal Council)は、政府の2019年一般会計予算(中央政府予算、地方自治体予算、健康保険機構、年金障害保健機構予算を含む全体の予算)における、GDP比0.4%の財政黒字の確保、公的債務のGDP比66.6%への改善は、主に経済成長によって可能となっているもので、現在経済成長のピークを迎えている中、今後財政赤字に陥るリスクを伴っていると警鐘を鳴らした。

14日、政府は、財政諮問委員会の見解に対し、財政政策が経済サイクルを安定化させると同時に、長期的な経済成長を促し、適切な所得分配を実現するツールであるべきとの認識のもとに2019年予算を計

画したと説明。また政府は、歳出の増加分は歳入の増加により賄われており、財政の安定を保障すると述べた。

●スロベニア健康保険機構の2019年予算承認

18日、スロベニア健康保険機構(ZZZS)は、2019年予算を承認した。歳出及び歳入ともに約30.5億ユーロで、前年比約6%の増加。歳入源の95%が健康保険料の徴収であり、歳出の70%が医療サービスに充てられる。計画には、プライマリーヘルスケアネットワークの拡大、総合診療医及び小児外科医の増加が含まれる。なお、病院での待ち時間短縮のために、2000万ユーロが確保された。

なお、同日、ファキン保健大臣は、2019年、保健省は公的医療機関における管理体制を改善することに注力する旨の意向を表明した。同大臣は、「資金を適切に管理し、予算内で運営することが肝要」と述べ、2019年1月末には、医療機関の管理委員会及び監督委員会のアカウンタビリティに関する法案を提出する予定であると述べた。

●スロベニア年金障害保健機構の2019年予算承認

20日、年金障害保健機構(ZPIZ)は、2019年予算を承認した。総予算は、歳出及び歳入ともに55億ユーロ。主な歳入源は年金保険料(80%)であり、政府からの補助金は7.3億ユーロ、年金基金(KAD)による負担金が5000万ユーロ。2019年、年金受給者数は前年比0.5%増加する見込みで、また、受給額が2019年2月に2.8%、12月には1.4%引上げられる予定であり、歳出の84%が年金の支給に充てられる。

中央政府予算(単位:百万ユーロ)	2019 年 2017.12 採択		2019 年(変更点) 2018.12 改正	2018 年	
歳入	9,751	100.0%		9,676	100.0%
税収入	8,232	84.4%		7,936	82.0%
手数料等収入	577	5.9%		584	6.0%
資本収入	37	0.4%		37	0.4%
寄付金等	9	0.1%		9	0.1%
EU 基金	896	9.2%		1,110	11.5%
歳出	9,697	100.0%		9,625	100.0%
経常経費(利払費等を除く)	2,191	22.6%	-60	2,174	22.6%
利払費等	824	8.5%		824	8.6%
社会保障、地方交付金等	5,357	55.2%	60	5,254	54.6%
資本投資	889	9.2%		944	9.8%
EU 拠出金	436	4.5%		429	4.5%
財政収支	54			51	

【外政】

● ツェラル外相、ドイツを訪問

3日、ドイツを訪問したツェラル外相は、マース独外相と会談し、最も重要なビジネスパートナーであるドイツとの更なる関係強化への関心を表明した。両外相は、EUの将来、Brexit、法の支配等、EUが直面する様々な課題を中心に意見交換を行い、両国が欧州の価値観強化に貢献していくことが重要であるとの考えで同意した。また、ツェラル外相は、今後、両国の関係は様々な分野において強化されていくであろうと述べた上で、ドイツ企業によるスロベニアへの投資強化の重要性を強調した。

● パホル大統領、ギリシャを訪問

4日、ギリシャを訪問したパホル大統領は、パヴロプロス・ギリシャ大統領及びチプラス首相と会談した。パホル大統領は、両国による欧州のアイデア及び国際法の尊重への貢献を強調し、チプラス首相に対し、国名問題に関するマケドニアとの合意成立に祝意を伝達した。また、同大統領は、欧州のアイデアを強化していくためには、新たな推進力が必要として、それは欧州の安全かつ幸せな未来を確立していくための唯一の道であり、両国を含め、考えを共有する欧州諸国の更なる努力が必要であると述べた。

● シャレツ首相、オーストリアを訪問

5日、オーストリアを訪問したシャレツ首相は、クルツ・オーストリア首相及びファン・デア・ベレン大統領と会談した。クルツ首相との会談では、両首相は、両国の関係は非常に良好であり、幾つかの課題はあるものの、それらは一緒に解決していくことが不可能なものでは全くないとの認識で一致した。シャレツ首相は、オーストリアの対スロベニア国境における国境管理は必要でないとの考えを伝達したのに対し、クルツ首相は、国境管理はEUとEU域外との国境線が適切に保護されるまでは廃止することはないとの考えを示した。

● ツェラル外相、NATO外相会合に出席

5日、ツェラル外相は、2日間に亘るNATO外相会合への出席後、ロシアによるINF条約違反及び米国の同条約からの離脱の可能性は、欧州諸国に対する深刻な脅威となり、潜在的にはスロベニアにも影響を及ぼすとの見解を示した。また、同外相は、本件につきスロベニア政府は、2019年1月にも国内における議論を開始し、国防及び安全保障面での評価を採択し、その潜在的影響につき関係機関に報告すべきであると述べた。さらに、同外相は、「ロシアが開発した地上発射型巡航ミサイルは、極めて短時間に欧州を

攻撃することが可能であり、対処するのは極めて難しい。これが、情勢が深刻である理由である。ロシアが、米政府の要求に従い60日以内に条約遵守を開始する可能性は極めて低いであろう」との考えを示した。



(photo: nato.int)

● ツェラル外相、OSCE閣僚級会合に出席

6日、ミラノで開催されたOSCE閣僚級会合に出席したツェラル外相は、アゾフ海におけるロシアとウクライナ間の情勢緊迫化に憂慮するとの立場を表明し、国際法及び主権・領土一体性の尊重に基づく、紛争の平和的な解決を呼びかけた。また、同外相は、OSCEの「Forum for Security Cooperation」議長国として、スロベニアはウクライナの問題解決に貢献してきたと強調した。

● トラ・カタルーニャ州知事、スロベニアを訪問

6日、パホル大統領、ジダン国民議会（下院）議長及び国民議会外交政策委員会メンバーは、ヴァイグル欧州議員（ALDE／DeSUS）の招待でスロベニアを訪問中のトラ・カタルーニャ州知事と会談した。パホル大統領及びトラ州知事は、スロベニアと同州との間の良好な関係につき協議しつつも、パホル大統領は、スロベニアが同州による独立に向けたより強固な権利取得については介入しないとの方針を強調した。

12日、トラ・カタルーニャ州知事は、ブリュッセルでのスピーチにおいて「カタルーニャ州も（独立に際し）スロベニア方式を取ることを支持する」と述べたことに対し、カラ・スペイン政府広報官兼教育大臣が「彼は、明らかにスロベニア（の独立）において多くの死傷者が発生したことを忘れている」とコメントした。

これに対し、スロベニア外務省は駐スロベニア・スペイン大使を外務省に招致し、スロベニアの独立は暴力を通じてではなく、侵略者からの防衛により達成されたとの考えを説明した。レスコヴァル外務副大臣は、国民議会外交政策委員会における答弁において「本件問題に関するスロベニア政府の立場は透明かつ一貫しており、民族自決権は合法的かつ民主的基準に則って行使されるべきものであり、本件問題の解決は、平和的手法により、対話等に基づき達成されるべきと考えている。スロベニアは、他国の領土一体

性を尊重し、内政には関与しない」との立場を表明した。

14日、EU首脳会合出席のためブリュッセルを訪問したシャレツ首相は、サンチェス・スペイン首相と会談し、先般、パホル大統領が、スロベニアを訪問したトラ・カタルーニャ州知事との間で非公式会談を行ったことは残念であるとの考えを伝達した。また、同首相は、カタルーニャ州の問題はあくまでもスペインの国内問題であるとして、スロベニアの独立を、カタルーニャ州の状況と比較することは出来ないとの考えを示した。

●スロベニア政府、難民支援に270万ユーロ拠出

6日、スロベニア政府は、トルコにいる難民支援のためのEUファシリティに270万ユーロを拠出することを決定した。2015年の難民危機を受け、EUはトルコとの協力促進を目指し、トルコにいるシリア難民支援及びトルコ政府による違法移民対策のための共同アクションプランに合意している。同合意に沿って、第1期(2016—17年)では、EUの総予算30億ユーロに対し、スロベニアは500万ユーロを拠出。第2期(2019—23年)では、EUの総予算は30億ユーロ。なお、政府は、インドネシアにおける地震津波被害に対する支援及びコンゴ民主共和国における人道支援のために、同地域で活動する国際赤十字赤新月社連盟等に対して併せて9万ユーロ貢献することを承認した。

●ジダン議長、ポルトガル訪問

7日、ジダン国民議会議長は、社会民主党(SD)が加盟している欧州社会党(PES)総会出席のためにポルトガルを訪問し、ロドリゲス共和国議会議長及びコスタ首相と会談した。両議長は、スロベニアとポルトガルが2021年にEU議長国を務めるのを控え、欧州の未来及び議会間協力強化につき意見交換を行った。また、両議長は、欧州はアフリカに対する効果的な政策が必要であり、生活及び労働状況の改善なしには、移民の流入は妨げることが出来ないとの認識で一致した。

●スロベニア、国連移住グローバル・コンパクト採択

10日、マラケシュにおいて開催された国連移住グローバル・コンパクト(GCM)採択会合において、スロベニアはGCMの採択に賛成票を投じた。同会合に首席代表として出席したチュリン内務副大臣は、「GCMは、本件問題に対処していくための助言を提供するものであり、GCMが定めるスタンダードは既にEU法体系の一部となっている」と述べた。ツェラル外相は、ブリュッセルにおいて、「自分は、GCMがポジティブな効果を出すものと確信している。一方で、不法移

民の流入防止に向けた努力は継続されなければならない」との立場を表明した。

12日、国民議会外交政策委員会は、民主党が提案していたGCMへの参加の是非を問う国民投票実施を否決した。SDSのグリムス議員は、「GCMへの参加につき有権者は意見を述べることを許されるべきである」と主張したが、連立与党所属議員は、同提案は国民の恐怖心を煽り、国民を分断する試みであるとして全会一致で同提案を否決した。

●レーベン環境・空間相、COP24成果に遺憾の意を表明

17日、ポーランドのカトヴィツェで開催された第24回国連気候変動枠組条約締結会議(COP24)に出席したレーベン環境・空間大臣は、COP24の成果につき、同会合において気候変動に関する政府間パネルの報告書が採択されなかったことに遺憾の意を表明した。同大臣は、スロベニアが気候変動対策のプログラムに1億5700万ユーロをイヤマークし、オランダの法律をモデルとした特別法案を策定していると述べるほか、ショシュタン石炭火力発電所の新たな発電機整備に多大なコストが生じている等の問題につき言及した上で、「我々は、模範を示すべきであり、国際レベルで国々が合意に至らない場合にも、我々の責務を果たしていく」として、スロベニア政府は、2050年迄の排出権削減に向けた野心的な戦略を提案するとの考えを示した。

●ジダン議長、セルビア訪問

12日、セルビアを訪問したジダン国民議会議長は、ゴイコビッチ・セルビア国会議長と会談し、両国議会間の協力に関するMOUに署名すると共に、セルビアによるEU加盟に向けた努力に支持を表明した。同MOU締結により、両国議会は、農業、産業、観光等の分野で協力していくことが可能となる。また、両議長は、多岐に亘る両国間の経済協力強化についても意見交換を行った。

●シャレツ首相、英国議会によるEU離脱合意案の承認の可能性に悲観的

14日、シャレツ首相は、EU首脳会合終了後、英国のEU離脱に関する合意が、英国議会により承認される可能性につき楽観視していないとの考えを表明した。また、同首相は、「我々は、与えられた権限の中で出来る全てのことをした。決定を下すのは英国次第である」とし、英国議会が同合意に同意しない場合には、残る選択肢は1つしかなく、それは、英国が合意なしにEUを離脱することであると述べた。

●ツェラル外相、米訪問

15日、ツェラル外相は米国を訪問し、ポンペオ米務長官及びボルトン安全保障担当大統領補佐官と会談し、二国間関係及び西バルカン情勢等につき意見交換を行った。また、同外相は、両者に対し、クロアチアとの国境線確定問題に関するスロベニアの立場を説明した。同外相は、「クロアチアは、仲裁合意の不履行により、事実上、国際法及びEU法に違反している」として、国際法遵守の観点から、本件に関し、米国が中立の立場を取っていることは十分ではないと説明したと述べた。ポンペオ米務長官及びボルトン補佐官は、二国間のビジネス関係強化の重要性を強調すると共に、スロベニアとロシアとの関係を問題視していないとの考えを示した。

16日、米国を訪問したツェラル外相は、ワシントン・ポストとのインタビューにおいて、「仮に米国が、より目に見える形で欧州においてリーダーシップを発揮しない場合には、ロシアと中国により影響力を削がれる可能性がある」と述べた。同外相は、「(米国が欧州との間で)良好な経済協力を維持することだけでは不十分である。中国人は欧州に来ている。自分は首相として、5回も李克強・中国首相と懇談している。従って、自分は、友人であり同盟国である米国が、(欧州)地域においてより大きな存在感を示すことがより良いと考える」と述べた。



(photo: Robi Poredoš/STA)

●シャレツ首相、EUアフリカ・フォーラムに出席

18日、EUアフリカ・ハイレベル・フォーラムに出席したシャレツ首相は、スピーチにおいて、欧州とアフリカの経済及び社会はより緊密な関係となっており、デジタル化及びイノベーション等を通じた、共通の課題への対応、平等性に基づく強固かつ包括的なパートナーシップの構築が必要であると述べた。同フォーラムのマージンにおいて同首相は、エジプト、ニジェール及びブルワンの首相と会談し、特にビジネス分野を中心とした協力強化の可能性につき意見交換を行った。

●スロベニア、2026～28年人権理事会理事国選挙への立候補を表明

20日、スロベニア政府は、2018年末に人権理事会理事国の任期が終了することを受け、2026年から28年の任期で人権理事会選挙に再立候補することを表明した。スロベニアはこれまで2回、人権理事会理事国を務めている。スロベニアは人権理事会議長として、UNHCR活動の透明化、ビジビリティ確保及び他の国連機関との協力強化を訴え、重要な貢献をしてきた。政府広報局は、人権理事会選挙への再立候補により、これまでのスロベニアによる人権分野における貢献を継続していきたいとの考えを示した。

●スロベニア、クロアチア政府に対し両国政府による国境線画定委員会の立上げを要請

21日、スロベニア政府は、クロアチア政府に対し、国際仲裁裁判所による国境線画定に関する最終裁定を履行するために、国境地帯において国境線の画定作業を行う両国政府による国境線画定委員会を立ち上げるよう要請した。スロベニア政府は、同裁定により、住宅及びビジネスがクロアチア側の領域に入ると判断された人々に対し、既に194万ユーロの補償金を支払っている。

●エリヤヴェツ国防相、KFOR派遣部隊を訪問

22日、エリヤヴェツ国防相は、コソボ治安維持部隊(KFOR)に派遣されているスロベニア軍部隊を訪問し、KFORは「コソボの安定を保証するものである」として、それが、スロベニアが242名の軍事要員を派遣し、同地域における目に見える軍事プレゼンスの継続を重要視する理由であると述べた。また、同国防相は、昨今のコソボ・セルビア間の緊張状態の悪化に懸念を表明し、両国は一方的な行動を避け、建設的対話を継続すべきであるとの考えを強調した。

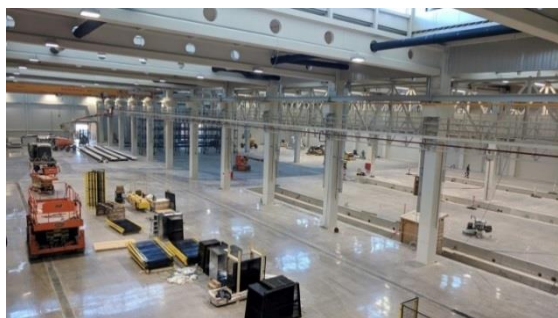
経済

●ポチヴァルシェク経済相、安川電機新工場を訪問



3日、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、吉

田大使と共に、コチエウイェ市で建設が進んでいる安川電機のロボット製造拠点を訪問した。コスレル・安川スロベニア社長によれば、同工場は、2019年1月に試験操業を開始し、同年後半に完全操業を行う予定となっている。安川電機は、同工場において7種類の産業用ロボットを製造する予定であり、12月中に事業認可を取得する予定となっている。



現在、同工場では30人が雇用されているが、2019年3月迄には60名～70名に、2020年3月には120名～150名に、2023年までには約200名が雇用されることとなる。ロボットの生産台数は、年間6000台となる見込みである。

ポチヴァルシェク大臣は、「本件投資は、スロベニアの非常に良い投資先としての地位を確認するものであり、ロボット分野においてスロベニアを周辺地域の中で重要なプレイヤーに押し上げるであろう」と述べた。また、同大臣は、「本件投資は、同社が次期投資として計画している、モーター、サーボレギュレーター及びインバーター等の製造工場の建設に向けた良いスタートである」と述べた。

同社は、ロボット製造施設に加え、R&Dセンターも設置し、既に協力関係にあるリュブリャナ大学機械工学部・電気工学部及びヨジェフステファン研究所等との協力を強化していくこととなる。安川電機のロボット製造拠点は、欧州、中東及びアフリカ地域における同社の需要の75%を満たすこととなり、残りのロボットについては日本から輸入されるが、スロベニアは同社製品のディストリビューション・ハブとなる。



●銀行資産管理会社(BAMC)の幹部解任

6日、ベルトンツェリ財務大臣は、銀行資産管理会社(バッドバンク)BAMCのユハルト非業務執行取締役(Miha Juhart)を解任し、同氏の後任としてベセク氏(Tomaz Besek)を任命した。同財務大臣は、Ernst&Youngによる監査においてBAMC内の不正行為が発覚し、また、当時ユハルト氏が同事案の責任者であったとして同氏を解任したと説明。政府は、「同不正行為は、BAMCの内規も法律も遵守せずに行われたものであり、BAMCの資産価値を損なわせる意図があったことが明白である」と述べた。

19日、ユハルト氏の解任に続き、同BAMCのバロフ代表取締役(CEO, Imre Balogh)が辞任した。

●スロベニアにおける2017年航空旅客数の増加率、EU内1位

8日、欧州統計局のデータによれば、2017年のEU加盟国内の航空旅客数の増加率でスロベニアが前年比19.8%増の168万2000名を記録し、増加率ではEU内で第1位となった(EU全体では5.3%増)。また、リュブリャナ空港は、EU内で150番目に利用者数が多い空港となったが、殆どがEU圏内への航空便の利用者であった。

●IMF 調査団:「スロベニアは、好景気を活用した構造改革の推進が肝要」

11日、IMF加盟国の経済状況にかかる協議のためにスロベニアを訪問していたアキトビ(Mr Bernardin Akitoby)IMF団長は、スロベニアは6年連続して経済成長を記録しているが、今後はこの好景気を活用して長期的な繁栄のための構造改革を実施することが肝要であるとの声明を発表した。IMFは、国際情勢におけるリスクを背景に、スロベニアが本年4.5%の成長を記録する一方で、今後経済成長が減速することを想定し、来年の成長率を3.4%と予測。

IMFは、スロベニアが構造的均衡を達成するための具体的な取組として、年金対策では、インセンティブ等を活用した定年年齢の引き上げ、経済活動面では、投資・研究開発活動に対するインセンティブの促進、民営化の加速化等を通じた効率性の向上等を挙げている。これに対し、ヤズベツ(Ms Saša Jazbec)財務副大臣は、IMFの提言はこれまでのものと同様であり、スロベニア政府も承知しているが、来年中に大々的な構造改革を実施することは難しいとの見解を示した。

11月9日、10月下旬に開始された新リュブリャナ銀行(NLB)の株式公開プロセス(IPO)において、公開価格が51.50ユーロで設定された。スロベニア政府は、所有する株式の59%を同価格で売却した。51.50ユーロで換算した場合、NLBの総価値は約10億ユーロとなる。また、政府は、最大65%の株式を売却するオーバーアロットメントオプションを承認した。

同月14日、NLB株式がリュブリャナ証券取引所(LJSE)及びロンドン証券取引所(LSE)に上場し、LJSEでは公開価格の10%増の56.65ユーロ、LSEでは、海外株式預託証書(GDR、1普通株=5GDR)が公開価格の11%増の11.50ユーロで初値が付き、好調なスタートを切った。

12月13日、証券会社「Wood & Company」は承認済みのオーバーアロットメントオプションを行使した旨発表。スロベニア政府の所有株式は35%となった。

●NLB格付け:11月23日、格付け機関フィッチは、NLBの債権ポートフォリオに関し、2018年第一四半期における新たな不良債権発生数が減少して以降安定しており、また、民営化の開始により同銀行の事務経費にかかるリスクが減少したこと等から、NLBの長期債務格付けを「BB」から「BB+」に引き上げた。

12月5日、ムーディーズは、フィッチ同様、同銀行の長期債務格付けを「Baa2」に2段階引き上げた。

12月14日、S&Pは、NLBの長期債務格付けを「BB+」に据え置いたものの、アウトlookを「検討中(developing)」から「ポジティブ(positive)」に上方修正。

●NLB業績:NLBの2018年9月末までの9か月間における純利益は約1億6000万ユーロ。不良債権比率は、前年同時期の11.9%から7.6%に改善した。資産額は、前年同時期比6%増の128億ユーロ。

●NLB株式価格:12月29日現在のNLB価格は、公式上場価格(official listing price)から9.4%増の62ユーロとなっており、上場以来最高値を記録した。

なお、一部報道によれば、主要投資機関に米国投資運用企業「Brandes Investment Partners」及び欧州開発銀行(EBRD)が含まれると推測されるが、最終的な株主の詳細情報は非公開。

●今後の見通し:欧州委との合意によれば、スロベニア政府は、今後2019年末までに株式所有率を25%プラス1株に引き下げるために、残り10%分の株式を売却することとなっている。なお、NLBは2013年、政府より15.5億ユーロの資本増強支援を受けており、その返済の時期が注視される。

●インフラ相、コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業の計画見直し検討を表明

19日、ブラトウシク副首相兼インフラ相は、欧州投資銀行(EIB)の要請により、コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業の計画見直しを行っている」と述べた。同大臣によれば、EIB側は、同路線の建設予定コース、事業規模及び工事経費につき満足していない模様である。同大臣は、「EIBとの関係では、現時点では何も決定していない。他方、欧州委は本件プロジェクトを重要かつ適切なものとみており、既にEU基金から1億ユーロを確保している。自分は、EIBも最終的には本件事業がスロベニア及び周辺地域にとり非常に重要なものと認識し、融資確保に問題が生じないことを期待し、確信している」と述べた。

●リュブリャナ空港、新旅客ターミナル建設開始

30日、スロベニア通信は、リュブリャナ国際空港において新たな旅客ターミナルの建設が開始され、同空港を管理しているFraport社が、現在、建設業者の選定を行っている旨報じた。1万平米の面積を有し、2021年に使用が開始される予定の新ターミナルでは、出国審査及びセキュリティ施設が拡張され、新たな店舗やレストランも開設される。スコビル同社社長は、「リュブリャナ空港の利用者数が増加傾向にある中で、新ターミナルの建設は、サービスを改善させ、現在ボトルネックとなっている出国手続における混雑をなくす効果が期待される」と述べた。



(photo: fraport-slovenija.si)

軍事・治安情勢

●スロベニア初となる女性のボブナル警察本部長が正式任命

11日、政府は、10月に初の女性警察本部長代行として任命されたタチアナ・ボブナル氏(Tatjana Bobnar)を警察本部長として正式に任命した。任期は5年。ボブナル氏は、1969年生まれ、1993年に犯罪捜査官として警察に入り、少年犯罪課長、オペレーション支援部長、リュブリャナ警察署長補佐等を歴任。2009年より、警察副本部長を務めていた。



(photo: bobo/reporter.si)

社会・文化・スポーツ

●スロベニアへの旅行客数が増加

11日、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、2018年の旅行者数が同年10月末に早くも前年の記録を上回り、年末には観光者数560万人及び宿泊数1520万という過去最高記録を打ち出すだろうと述べた。パク観光庁(STO)長官は、文化的観光資源を中心としたマーケティングが成功の要因の一つであると述べた。また、海外のメディアからの注目についても触れ、スロベニアが推奨される観光地として常にリストアップされていたことを強調し、「スロベニアは今や、知っている場所というだけではなく、トレンドの目的地」と述べた。

STOは、今後の予定として、2019年のフォーカスは引き続き「文化」と定め、その後2020年と2021年は、スロベニアがヨーロッパ・リージョン・オブ・ガストロノミー2021に選ばれたことを受けて、「食」をテーマとするとしている。また、パクSTO長官は、同「ガストロノミー」国に選ばれた理由として、影響力のあるフランスのレストランガイド Gault & Millau が高級レストランガイドのスロベニア語版を出版したことがきっかけではないかと述べた。



(photo: gourmet-lj.si)

●スノーボード W 杯パラレル大回転でマストナク選手が優勝

13日、スロベニアのスノーボーダー、マストナク選手(Tim Mastnak)がスノーボードワールドカップ、パラレル大回転で優勝した。マストナク選手はツェリエ出身の27歳で、ワールドカップで15回優勝したオーストリアのベテラン、カール選手(Benjamin Karl)よりも0.

73秒早い記録で優勝。マストナク選手がワールドカップで優勝を飾るのは今回が2度目。

●ガブロヴェツ氏、スロベニアオリンピック委員長として2期目再選

16日、スロベニアオリンピック委員会は、ガブロヴェツ(Bogdan Gabrovec)委員長の2期目再選を満場一致で決定した。任期は4年。ガブロヴェツ氏は、引き続きアマチュアスポーツを含むスポーツを幅広くサポートし、関連法案の改正に積極的に取り組んでいくと述べた。また、同委員長による2022年までの計画には、大学における体育の義務教育の再導入、オリンピック大会に関しては、2018年平昌で再開した「スロベニア・ハウス」を推進し、2020東京オリンピックにおいても設置すること等が含まれる。

●アルペンワールドカップでシュトヘツ選手、クラニェツ選手優勝

19日、スロベニア人のスキーマー、シュトヘツ選手(Ilka Štuhec)とクラニェツ選手(Žan Kranjec)は、それぞれイタリアとオーストリアで行われていたアルペンスキーワールドカップで勝利を収めた。シュトヘツ選手は前日の膝の負傷から復帰して女子スーパードリフトで勝利した。クラニェツ選手は、ドリフトで、最初の走りを4位で終えた後、2回目に素晴らしい技とスピードを見せ自身初となる優勝を果たした。



(Žan Kranjec, photo: Facebook of Žan Kranjec)

発見！スロベニア 漫画・アニメフェス「MAKKON」

12月15日(土)、リュブリャナ大学コンピュータサイエンス・情報学部において、マッコン・ポップカルチャーフェスティバルが行われました。

Makkon は Makkon コミュニティが中心となり、毎年12月に行われるイベントです。アニメ・マンガ、そして日本の文化を中心に全てが展開するイベントとして年々大きく成長しています。Makkon の名前は、「祭り」と「大会」を意味する英単語の「convention」が由来となっています。日本のコミックマーケットとはまた違う、アニメ・マンガを中心としたとても興味深いイベントです。



プログラムは非常に多様で、幅広い活動が含まれています。来場者はリズムゲームやゲームパッドを会場で直接試すことができますし、様々な面白い講義、プレゼンテーション、パフォーマンスを見ることもできます。講義では、日本のアニメやマンガの歴史のレクチャーの他、2018年には、コスプレに生かす3Dプリンターの使い方のレクチャーなども行われました。ドローイングワークショップや読書コーナー、そしてスロベニアの芸術家による展示も行われました。また、カラオケ大会やアニメクイズ大会、コスプレコンテストなど参加者の技を競う大会も同時開催されました。他にも、日本でも話題になったメイド&バトラーカフェや和スイーツなどの飲食ブースが設置されました。



アニメ・マンガといったサブカルチャー以外にも、日本語や習字、折り紙ワークショップ、武道デモンストレーションなど日本の伝統文化紹介も同時に行われました。



在スロベニア日本大使館もブースを設け、正月飾りをはじめとする日本文化紹介の他、日本への大学留学案内の展示を行いました。今年は初の試みとして、カルタ取り大会を3回行いました。各回にエントリーして下さった参加者は日本人スタッフの読み上げる日本語を聞きながら、激しい戦いを繰り広げられました。また、折り紙講座も常時開催し、折り紙3枚を使って作る立体的な独楽をとっても真剣に作っていただきました。当館ブースにお立ち寄りいただいた皆様、大変ありがとうございました！



Makkon HP: <http://www.makkon.si/>

小さなワイン大国スロベニアのワイナリー紹介 第13回「カバイ・ワイナリー(Kabaj)」



(写真: Terraneo Merchants)

カバイ(Kabaj)・ワイナリーは、イタリア国境に隣接する丘陵地帯、ゴリシュカ・ブルダ(Goriška brda)に位置し、斜面に位置する2つのロケーションに約12ヘクタールのブドウ畑を所有しています。同地域は、夏は暑く、冬は温暖な地中海性気候帯に属し、夏の強い日差しと乾燥した空気、そして、アドリア海から吹く風はブドウを完熟させます。

ボルドーで学んだ、フランス人醸造家であるジャン・ミッシェル・モレル(Jean Michel Morel)氏は1989年にスロベニア人のカティア・カバイさんと結婚し、スロベニアの固有ブドウ種とフランスの醸造技術を融合させたプロジェクトが始まりました。



(写真: OVINU.SI, フランス人醸造家のモレル氏)

同ワイナリーのブドウの約7割が白で、レブラ(Rebula)とラヴァン(Ravan, Tokaj と同種)を主力とし、ピノ・ブラン、ピノ・グリ、ソービニオン、マルヴァジア等を生産しています。赤については、メルロを主力とし、カベルネ・ソービニオン、カベルネ・フラン等も栽培しています。同ワイナリーでは、持続可能なブドウ栽培に力を入れており、自然の堆肥を活用した有機農法を導入しています。

同ワイナリーで製造されるワインは、マセラシオン(醸し)製法によりワインの色味や香りを強く抽出し、最短でも1年間フレンチオークの樽で熟成させたものです。また、同ワイナリーではワイン発祥の地と言われるコーカサス地域のジョージアの伝統製法であるアンフォラ(古代ギリシャやローマなど、地中海沿岸の地域で広く使われていた貯蔵・運搬用の壺)で熟成されたワインも製造しています。



(写真: Wines & More)

同ワインのお勧めワインは次の通りです。

Sauvignon: 24 時間のマセラシオン後、フレンチオーク樽で1年間で熟成。香り豊かで、ミネラルを感じ、特に白いフラワー系の香りが最後まで続く。口当たりが良く、心地よい酸味を有する。和食にも合わせやすいワイン。

Rebula: 30 日間のマセラシオンを経て、2年間フレンチオーク樽で熟成されたフルボディーの白ワイン。様々なフルーツやドライフルーツ、ナッツ類の複雑な香りが楽しめる。オレンジワインに近いものの、タンニンはそれほど強くはなく、バランスの取れた長いフィニッシュのワイン。

Merlot Cuvee Morel: 21 日間のマセラシオン後、2年間フレンチオーク樽で熟成。メルロを主体とする典型的なボルドースタイルのブレンド。ドライ・プラムや微かなスモークを感じるフルボディーな赤。タンニンはスムーズで、長いフィニッシュを有するバランスの取れたワイン。

ウェブサイト: <https://www.kabaj.si/en/>

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。2019 年もスロベニアを始めヨーロッパ各国を転戦予定。今から楽しみです。

今回は、僕の旅とレースの起点に度々なっているカムニクという町についてです。この町はバスターミナルと鉄道駅があり、ここを起点にあちこちに足を延ばすことができますので乗り継ぎや、1泊してのスケジュールの調整などに活用しています。コンスタントに発着するバスに比べて鉄道の本数はかなり少ないので、移動はバスがオススメです。



穏やかで親切的な町



カムニクは街の中心に広場、観光案内所、そこを取り囲むように何軒かのカフェが並び、のんびりとした雰囲気のある街。バスターミナルもすぐそばにあり、その向かいには毎朝、市が立ちます。生活に必要なものはここで全て揃います。談笑しながら買い物をを楽しむ人々の姿が楽しそうで、カムニクに泊まるとついついこの街の中心あたりを散策したくなります。穏やかな日常と人々の笑顔。溢れる自然だけでなく、僕がスロベニアに強く惹かれるのは実はそんなところかも知れません。また、観光客だけでなくサイクリストも多く訪れており、色とりどりのサイクルウェアを着た人々がカフェのテラスで談笑している姿を多く見かけます。カムニクは日本でいう宿場町のような位置付けなのかも知れません。

街の中心部から少し足伸ばすとマリグラッド（グラッドは城の意）という古城があります。坂道を上がると城壁と古城。城壁からはカムニクの街並みと山々が一望出来ます。5分ほどで着きますので是非ともここは足を運んでほしい場所です（写真左、中央）。

もう少し足を伸ばしたい方にオススメなのが、バス通りを挟んで向かいにある山です。ここにも昔は城があったようですが、今は観測所のような建物になっています。ぐぐっと100mほどの標高を一気に登るので登りごたえがあり、登りきり振り返ると、城壁の跡と見晴らしが広がります。近所の方の散策コースにもなっているようです。町中よりもパノラマが広がるので、時間のある方はぜひ訪れてみてください。レースの話に触れようと思いましたが字数が尽きてしまいました。次回こそはレースの話を書こうと思いますので楽しみに！

宮地藤雄（ミヤチフジオ）

2013～18 マウンテンランニング日本代表

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html



演劇パフォーマンス「日本むかし話(Japonske pravljice)」開催！

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●スリに注意

リュブリャナ中心部等において、日本人観光客のスリ被害が発生しています。

被害場所で多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。また、最近では、ブレッド湖など郊外の観光地でもスリや置き引き被害が増加しています。人混みの中では荷物を体の前で持つなどご注意ください。

[広報文化班からのお知らせ]

●演劇パフォーマンス「日本むかし話(Japonske pravljice)」開催！

「スロベニアで暮らす子供達に日本の昔話を届けたい。」そんな思いから2016年に立ち上げた演劇パフォーマンスの第二弾が、二年ぶりにスロベニアで開催されます。スロベニア語と日本語を織り交ぜ、箏の生演奏と共にお送りする新作。今回は「桃太郎」と「花咲か爺さん」をお届けします。この機会にご家族、ご友人を誘って、日本の昔話に触れてみませんか。

◆リュブリャナ（変更なし）

日時: 2月2日(土) 15:00 開演

3日(日) 10:00 開演

会場: Slovenski Gledališki Inštitut(住所: Mestni trg 17, Ljubljana)

入場無料, 要予約: Ms. Sandra Jenko Email: sandra.jenko@slogi.si もしくは TEL: 01-241-5818

※終演後に、親子で楽しめるワークショップも実施予定

◆マリボル（開演時間の変更あり）

日時: 2月9日(土) **17:00** 開演

会場: Lutkovno gledališče Maribor 小ホール(住所: Vojašniški trg 2A, Maribor)

入場無料, 要予約: Email: blagajna@lg-mb.si

出演: 藤井咲有里, 美月泉, 野口俊丞(いずれも新国立劇場 演劇研修所修了生)

音楽: 小島奈津子(箏)

※ 国際交流基金 平成 30 年度海外派遣助成プログラム